平成２７年度

第４回　対策地域内廃棄物処理業務等（減容化処理）に係るアドバイザリー委員会

議事要旨

日時：平成 28 年 2 月 26 日（金）　13:30 ～ 16:00

場所：福島環境再生事務所　南庁舎 4F 会議室

出席委員（敬称略）

国立環境研究所　資源循環･廃棄物研究センター　センター長	大迫　政浩
岡山大学環境管理センター　センター長	川本　克也
京都大学大学院　地球環境学堂　地球益学廊　教授	高岡　昌輝
国立環境研究所　資源循環･廃棄物研究センター　客員研究員	高田　光康
東北大学　大学院環境科学研究科　研究科長　教授	吉岡　敏明
環境省福島環境再生事務所　調整官（廃棄物担当）	馬場　康弘
環境省福島環境再生事務所　減容化施設整備課　課長	小島　啓之

オブザーバー

福島県生活環境部一般廃棄物課　主幹	鈴木　仁
福島県相双地方振興局県民環境部　主任主査	狗飼　大介

議事要旨

Ⅰ　本日の議事

１．焼却灰等の地盤改良用収納容器への詰め替えについて

２．仮設焼却施設の運転データ取りまとめ報告（中間報告）

３．フクシマエコテックにおける埋め立て処分について

Ⅱ　検討内容

１．焼却灰等の地盤改良用収納容器への詰め替えについて

冒頭、詰め替えの実証試験を実施している（一財）日本環境衛生センター（以降、日環セと記載。）より、内容について説明があった。

（１）詰め替え対象物について

委員より、詰め替え対象となる焼却灰の種類について質問があった。日環セより、放射性物質濃度が 10 万 Bq/kg 以下かつセシウム 137 の溶出濃度が 150Bq/L 以下であるセメント固型化していない主灰が詰め替え対象となるとの説明があった。

（2）作業効率について

委員より、主灰の詰め替えに要する作業時間について質問があった。日環セより、各設備を自動化しても1袋当たり30分程度を要する見込みであるとの回答があった。委員より、実施設では詰め替えの単位操作を別々に実施するわけではない（同時に実施する操作もある）ので単位時間当たりの処理可能量について整理するよう助言があった。

（3）安全管理について

委員より、作業中の非常事態において緊急停止は可能かとの質問があった。日環セより、各設備を集中管理・監視することで緊急停止は可能との回答があった。

（4）詰め替えた主灰の地盤安定性について

委員より、あらかじめ実施した物性調査の結果は、詰替え時における操作パラメータに反映されているのかとの質問があった。日環セより、別途フクシマエコテックの担当者が物性試験を行った結果、供試試料では 1.2t/m^3 以上の密度で充填すれば最終処分時の地盤安定性は確保できることが分かっているので、これを目標に詰め替えている。このフクシマエコテックの担当者による密度の指示は各仮設炉ごとに行われる予定との回答があった。

2．仮設焼却施設の運転データ取りまとめ報告（中間報告）

冒頭、日環セより、内容について説明があった。

（1）焼却灰について

委員より、広野町のガス化溶融炉で発生する主灰はスラグが該当するのかとの質問があった。日環セより、広野町はスラグが該当し、飯館村（小宮）は、炉形式が流動床であるため炉底不燃物が該当するとの回答があった。

（2）主灰の放射性物質溶出濃度について

委員より、主灰の放射性物質溶出濃度の検出下限値が日によって異なる理由について質問があった。日環セより、ゲルマニウム半導体検出器で測定する場合の検出下限値は、おおよその数値は合うのだが測定条件やバックグラウンド等の影響により若干異なるとの回答があった。

（3）飛灰のセメント固型化物のセシウム 137 の溶出率と一軸圧縮強度の関係について

委員より、飛灰セメント固型化物の一軸圧縮強度が大きいほどセシウム 137 溶出率は小さくなると予見されるが、両者の関係について整理することは可能かとの質問があった。日環セより、整理は可能であるとの回答があった。

（4）運転データ取りまとめについて

委員より、同施設の比較は解析手法が同じであるため変動幅等により比較が可能である。しかし、解析手法が異なる施設間で比較を行う場合は、注記や留意点を明確する必要があるとの助言があった。

3．フクシマエコテックにおける埋め立て処分について

冒頭、環境省　廃棄物・リサイクル対策部　指定廃棄物対策チームより、セシウム 137 の溶出に対する施設の設計について説明があった。

（1）埋め立て処分について

委員より、報告内容からフクシマエコテックは十分な安全設計が行われていると理解したとの意見があった。

以上